

# 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング） に関する取組状況について

## 経済財政運営と改革の基本方針2018 （平成30年6月15日閣議決定）【抜粋】

### 第3章「経済・財政一体改革」の推進

#### 4. 主要分野ごとの基本計画と重要課題

##### （1）社会保障

##### （生涯現役、在宅での看取り等）【抜粋】

人生の節目で、人生の最終段階における医療・ケアの在り方等について本人・家族・医療者等が十分話し合うプロセス<sup>※1</sup>を全国展開するため、関係団体を巻き込んだ取組や周知<sup>※2</sup>を行うとともに、本人の意思を関係者が随時確認できる仕組みの構築を推進する。また、住み慣れた場所での在宅看取りの先進・優良事例を分析し、その横展開を図る。

※1 ACP（Advance Care Planning）と呼ぶ。

※2 ACPに関し、国民になじみやすい名称の一般公募・選定や、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日の設定等を想定。

# 人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会

## <開催目的>

- 人生の最終段階における医療については、医療従事者から患者・家族に適切な情報の提供と説明がなされた上で、患者本人による意思決定を基本として行われることが重要。
- 本検討会は、人生の最終段階における医療に関する意思決定支援を図るために、国民に対する情報提供・普及啓発の在り方等について検討することを目的に開催。

## <スケジュール 計6回(平成30年3月23日とりまとめ)>

- 第1回 平成29年8月3日開催 第2回 平成29年9月29日開催 第3回 平成29年12月22日開催
- 第4回 平成30年1月17日開催 第5回 平成30年2月23日開催 第6回 平成30年3月23日開催

## <主なとりまとめ内容>

- 人生の最終段階における医療・ケアについて、事前に繰り返し話し合う取組(ACP)が医療・介護現場だけではなく国民一人一人の生活の中に浸透するよう、一層の普及・啓発が必要であること(リーフレットの作成や国民に馴染みやすい名称の検討等)

## 【構成員】(○は座長)

岩田 太	上智大学法学部 教授	佐伯 仁志	東京大学法学部 教授
内田 泰	共同通信社生活報道部 編集委員	清水 哲郎	岩手保健医療大学 学長
金子 稚子	ライフ・ターミナル・ネットワーク代表	鈴木 美穂	NPO法人マギーズ東京 共同代表理事
川平 敬子	宮崎市健康管理部医療介護連携課長補佐	瀬戸 雅嗣	日本テレビ放送網株式会社報道局社会部
木澤 義之	神戸大学医学部附属病院緩和支援治療科 特命教授	高砂 裕子	全国老人福祉施設協議会 統括幹事
木村 厚	全日本病院協会 常任理事	早坂由美子	南区医師会訪問看護ステーション 管理者
熊谷 雅美	日本看護協会 常任理事	○樋口 範雄	北里大学病院 トータルサポートセンター ソーシャルワーカー
権文 善一	慶應義塾大学商学部 教授	紅谷 浩之	武蔵野大学法学部 教授
齊藤 克子	医療法人真正会副理事長	松原 謙二	オレンジホームケアクリニック 代表
斉藤 幸枝	日本難病・疾病団体協議会常務理事	横田 裕行	日本医師会 副会長
			日本医科大学大学院医学研究科 2 救急医学分野教授

# 人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発の在り方に関する報告書 (平成30年3月29日公表)【抜粋】

## 普及・啓発の目的と必要性

- 人生の最終段階において、本人の意思に沿った医療・ケアが行われるようにするためには、人生の最終段階における医療・ケアについて繰り返し話し合う取組が、医療・介護現場だけではなく、国民一人一人の生活の中に浸透し、「生を全うする医療・ケアの質」を高めていくことが必要。
- このため、国民全体が、人生の最終段階における医療・ケアについて、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)※等の概念を盛り込んだ意思決定及びその支援の取組の重要性について、一層の普及・啓発が必要。

※ 人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス

## 普及・啓発の内容・方法(抜粋)

- 普及・啓発は、対象の属性に応じ、提供する情報の内容や支援方法を次のとおり分けて検討することが必要。
  - ① 人生の最終段階における医療・ケアの在り方を自分ごととして考える時期にある方
  - ② ①の方を身近で支える立場にある家族等
  - ③ 本人や家族等を支える医療・ケアチーム
  - ④ 国民全体

本人や身近な人のもものに備えて、日頃から考え、家族等の信頼できる者と繰り返し話し合いを行い、その内容を共有しておくことが重要であること

【国】考える日の設定や、この日に合わせたイベントの開催、関連情報のポータルサイトやeラーニング等の学習サイトの開設、ACPについて国民に馴染みやすい名称の検討

【地方自治体】リーフレットの配布、市民向けのセミナーの開催

【民間団体】結婚、出産、介護保険加入、介護休業、退職等のライフイベントに関連する手続きの機会を通じたリーフレットの配布、セミナーの開催

【教育機関】学校における生命や医療・ケアに関する授業や講義の機会を通じ、人生の最終段階における医療・ケアに関する教育 等

## ACPの普及啓発のための リーフレットについて

- ACPの普及啓発を図ることを目的としてリーフレットを右図のとおり作成し、厚生労働省HPにおいて、公表。
- 都道府県や医療・介護関係団体に対して、リーフレットを広報に当たって御活用いただくよう周知。

※ リーフレット掲載HP

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/saisyu\\_iryuu/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisyu_iryuu/index.html)

※ 「人生の最終段階における医療・ケアに関するリーフレットについて」（平成30年7月19日付け厚生労働省医政局地域医療計画課事務連絡）等を通じて周知を実施。

人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか？

## もしものときのために

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

誰でも、いつで、命に関わる大きな病気をケガをする可能性がります。

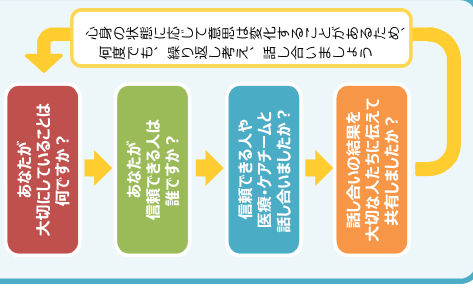
命の危険が迫った状態になると、

約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることが、できなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや強んでいることとここでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。



話し合いの進め方（例）



もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼びます。あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医師からあなたや家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

このような取組は、個人の主体的な行いによって考え、進めるものです。知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/saisyu\\_iryuu/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisyu_iryuu/index.html)



## ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の 愛称が「人生会議」に決まりました！



11月30日（いい看取り・看取られ）は「人生会議の日」

人生の最終段階における医療・ケアについて考える日

人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い、共有する取組を「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼びます。



詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/saisyu\\_iryuu/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisyu_iryuu/index.html)

